

「1950年代教育史」研究部会（第35回）

日時：2019年4月22日（金）13:00～15:20

場所：野間教育研究所 2F 閲覧室

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代・西山伸 各兼任研究員
吉久知延所長・金沢千秋・川上智子

内容：（1）鳥居和代研究員報告：『房総に於ける社会教育の総合調査』漁村篇から

- ◆『房総に於ける社会教育の総合調査』（1952年）は農村篇、漁村篇、都市篇から成る
 - ・調査の対象：九十九里地帯／片貝町（揚繰網等イワシ漁）・外川町（小型船の小規模な釣業）
 - 南方外房州地帯／千倉町（沖合漁業と沿岸漁業）
 - 西方内湾地帯／富津町（海苔養殖と小魚漁）・姉崎町（半農半漁）
 - ・同じ千葉県内の漁村でも、漁業の状況や形態などの違いから子どもの長期欠席が問題になったところとそうでないところがあることを再確認（片貝町の長期欠席率の高さ）
 - ・漁業に従事する保護者の学歴は、尋常小学校卒が相当数にのぼる→長欠理由には、保護者の無理解や無関心がいわれるが、その世代の親が、新制中学校の新たな義務教育システムについていけなかったこともある？
 - ◆戦時下の徴用船—千葉県銚子の漁船について：『戦時日本船名録（1937-1950）』（2006年）
 - ・戦時下～50年代にかけての千葉沿岸の漁業不振の背景として漁船の徴用も視野に入れる
 - ・船名録には20トン以下の船について記載がないが、『続銚子市史』に、運搬船として16～17トンの揚繰漁船が徴用されたとの記述あり→もう少し漁業状況について調べる
- （コメント）『房総に於ける社会教育の総合調査』農村篇・都市篇との比較も必要では？

（2）西山伸研究員報告：1950年代における大学管理をめぐって（5）

- ◆前回は、国立大学管理法案の国会提出までの大学新聞等の報道について
- ◆今回は、大学新聞や史料館の資料から第10国会以後の情勢を跡づける
 - ・第10国会で審議されるも成案とはならず→文部省は内部で新法案の準備
 - ・国立大学協会と連絡を取りつつ進めた「文部省事務局案」
 - ・第10国会提出の案との比較 [表1]：国立大学審議会・商議会 削除
→結局国会へ提出されず
- ◆旧帝国大学ではない神戸大学の例
 - ・教員の選考が教授会の議を経た後、評議会で議論されていた
 - ・大学以外の学校を統合した新制大学では評議会に権限を持たせる必要があった？
 - ・新制移行時の人員削減も評議会による調整を不可欠にさせた
→このような事例が、大学管理における評議会重視とつながるか、検討

- ・次回研究会は、2019年5月24日（金）13:00～。米田研究員、須田研究員
- ・次回以降 2019年6月28日（金）13:00～